

※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に
字数制限がある場合には、句読点や「」などの
符号も字数に数えること。

— これから、三田さんが川辺さんに、文化祭のクラスの催し物について相談している場面と、それに関連した問いを四問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

(放送が流れます。)

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明より重視されている点。
- イ 「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明以上に活躍している点。
- ウ 「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明では存在していない点。
- エ 「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明とかみ合っていない点。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 川辺さんは言葉の響きに着目しているが、三田さんは言葉が意味することを意識している。
- イ 川辺さんは言葉が示す情緒性に着目しているが、三田さんは言葉がもつ音楽性を意識している。
- ウ 川辺さんは言葉が及ぼす影響力に着目しているが、三田さんは言葉の規則性を意識している。
- エ 川辺さんは言葉の働きに着目しているが、三田さんは言葉の表現技法を意識している。

(3) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 一つ目は言葉のリズムを重視して作られているが、二つ目は客観性を重視して作られている。
- イ 一つ目は親しみを込めて作られているが、二つ目はお店側の願望を込めて作られている。
- ウ 一つ目はお店側の立場で作られているが、二つ目はお客側の立場で作られている。
- エ 一つ目は個性を伝える目的で作られているが、二つ目は利便性を伝える目的で作られている。

(4) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア お店の特徴を伝えることで、静かなお店で食事をしたい人に、にぎやかなお店で食事する良さを積極的に教えようとしているから。
- イ お店の特徴を伝えることで、お客さんを集めるためだけでなく、文化祭に来るお客さんがお店選びをしやすいよう配慮しているから。
- ウ お店の特徴を伝えることで、文化祭に来るお客さんが、食事を提供するお店はどこなのかを、見つけられるよう工夫しているから。
- エ お店の特徴を伝えることで、にぎやかなお店が好きな人も静かなお店が好きな人も、一緒に楽しめる空間であることがわかるから。

聞き取り検査終了後、3ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の――の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) 作家を招いて講演会を開く。
- (2) 私語を慎むように注意を促す。
- (3) 曖昧な態度では誤解されやすい。
- (4) あえて辛辣な意見を述べる。

三 次の(1)～(5)の――のカタカナの部分を漢字に直して、楷書で書き

なさい。

- (1) 知り合ってまだ日がアサイ。
- (2) 初日の出をオガむ。
- (3) 映画のヒヒヨウをする。
- (4) 新しい分野の雑誌をソウカンする。
- (5) 年功ジヨレツの制度。

四 (省略) (鹿毛雅治『モチベーションの心理学』による。)

五 (省略) (逸木裕『風を彩る怪物』による。)

六 次の文章を読み、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

これも今は昔、ある僧、人のもとへ行きけり。酒など勧めけるに、

^(注)氷魚はじめて出で来たりければ、あるじ珍しく思ひて、もてなしけり。

(初物として出回り始めたので)

あるじ用の事ありて、内へ入りて、また出でたりけるに、この氷魚の殊
(出て来て見ると)

の外に少なくなりたりければ、あるじ、いかにと思へども、いふべきや
(変だなどと思つたが)

うもなかりければ、物語しむたりける程に、この僧の鼻より氷魚の一つ
(雑談をしているうちに)

ふと出でたりければ、あるじあやしう覚えて、「その鼻より氷魚の出でた
(不意に)

るは、いかなる事にか」といひければ、取りもあへず、「この比の氷魚は
(どうしたことですか) (即座に)

目鼻より降り候ふなるぞ」といひたりければ、人皆、「は」と笑ひけり。
(「わっ」と笑った)

(『宇治拾遺物語』による。)

(注) 氷魚Ⅱアユの稚魚。色は半透明で、体長三センチメートル程度。

(1) 文章中の あやしう を現代仮名づかいに改め、ひらがなで書きなさい。

(2) 文章中の 酒など勧めけるに の主語にあたるものとして最も適当なもの、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア あるじ イ ある僧 ウ 氷魚 エ 作者

(3) 文章中の いかに とあるじが思つたのはなぜか。「氷魚が……」に続く形で二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

(4) 次は、この文章を読んだあとに、花田さんと月森さんが文章中のこの比の氷魚は目鼻より降り候ふなるぞ について、話し合った場面の一部です。これを読んで、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

花田さん この発言を聞いて、その場にいた人は皆笑ったとありますが、どこが面白かったのでしょうか。

月森さん この発言は、鼻から氷魚が出たことをあるじから問われて、とつさに答えたものですよね。鼻から氷魚が出てくるということは、この僧は、氷魚を [] と考えられますね。しかも、おそらく大量の氷魚を。

花田さん なるほど。だから不意に出てきてしまったのですね。でも、なぜこの発言では、氷魚が「出る」ではなく「降る」なのでしょうか。

月森さん それは、「氷魚」という言葉の読み方、すなわち音の響きをふまえて発言したからではないでしょうか。即座に機転をきかせた発言だからこそ、人々の笑いを引き起こしたのでしょう。

花田さん 僧と食事の関係で言えば、香りの強い野菜や酒を、持ち込むことを禁じていた寺もあつたようですよ。

月森さん 「不許葷酒入山門」ですね。実際に、寺の門のそばにある石柱に書かれているのを見ることがあります。時代背景を考えると、さらにこの文章の面白味が増しますね。

(a) 文章中の [] に入る言葉を、五字以上、十字以内で書きなさい。

(b) この僧の、機転をきかせたと考えられる内容として最も適当なもの、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 鼻から出た氷魚を、激しく吹き荒れる雨に見立てることで、その場を取り繕おうとした。

イ 鼻から出た氷魚を、眼球をうるおした涙に見立てることで、その場を取り繕おうとした。

ウ 鼻から出た氷魚に、氷のかたまりであるひょう(雹)をかけて、その場を取り繕おうとした。

エ 鼻から出た氷魚に、棒状の氷であるつらら(氷柱)をかけて、その場を取り繕おうとした。

(c) 文章中の「不許葷酒入山門」は、「葷酒山門に入るを許さず」と訓読み、次の「葷酒入山門」はその一部である。訓読文を参考にして、これに返り点をつけなさい。

葷酒入山門

七

次の【資料】は、「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」について質問した結果（複数回答）の一部です。これに関して、あなたの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

【資料】

「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」と回答した人の年齢別の割合

| | | |
|-------------|-----------|-------|
| 年 齢 別 | 20 - 29 歳 | 22.6% |
| | 30 - 39 歳 | 23.8% |
| | 40 - 49 歳 | 24.3% |
| | 50 - 59 歳 | 24.6% |
| | 60 - 69 歳 | 31.9% |
| | 70 歳以上 | 41.1% |

（文化庁「文化に関する世論調査 報告書
（令和4年3月）」より作成）

〈条件〉

- ① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。
- ② 前段では、【資料】から読み取ったことと、それに対するあなたの考えを書くこと。
- ③ 後段では、前段をふまえて、あなたが今後諸外国との文化交流を行う機会があったら、具体的にどのような交流を行いたいかを、その理由とともに書くこと。

〈注意事項〉

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方があって書くこと。
ただし、 $\{$ や \parallel などの記号を用いた訂正はしないこと。